

キヌヒカリ・にじのきらめきの栽培ごよみ

月 旬	冬期間	5			6			7			8			9			10			収穫後
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
生育段階					育苗期		活着期	有効 分けつけ	無効 分けつけ	幼穂 形成期 -25	穂ばらみ期 -15	出穂期 0	乳熟期～登熟期 +30	成熟期 +35～40						
作業		塩 水 選 消 毒	種 子 播 種	元 肥	代 か き ・ 田 植	除 草				第一 回 穗 肥	第二 回 穗 肥 ①	防 除 ②		刈 取り き み 方 り	刈 取り き み 方 り	乾 燥 ・ 調 整			稻 ワ ラ 処 理	
水管理																				

きぬむすめの栽培ごよみ

月 旬	冬期間	5			6			7			8			9			10			収穫後
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
生育段階					育苗期		活着期	有効 分けつけ	無効 分けつけ	幼穂 形成期 -25	穂ばらみ期 -15	出穂期 0	乳熟期～登熟期 +35	成熟期						
作業		塩 水 選 消 毒	種 子 播 種	元 肥	代 か き ・ 田 植	除 草				第一 回 穗 肥	第二 回 穗 肥 ①	防 除 ②		刈 取り き み 方 り	刈 取り き み 方 り	乾 燥 ・ 調 整			稻 ワ ラ 処 理	
水管理																				

ヒノヒカリ・にこまるの栽培ごよみ

月 旬	冬期間	5			6			7			8			9			10			収穫後
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
生育段階					育苗期		活着期	有効 分けつけ	無効 分けつけ	幼穂 形成期 -25	穂ばらみ期 -15	出穂期 0	乳熟期～登熟期 +35	成熟期						
作業		塩 水 選 消 毒	種 子 播 種	元 肥	代 か き ・ 田 植	除 草				第一 回 穗 肥	第二 回 穗 肥 ①	防 除 ②		刈 取り き み 方 り	刈 取り き み 方 り	乾 燥 ・ 調 整			稻 ワ ラ 処 理	
水管理																				

基幹防除例(全品種共通)

防除時期	病害虫名	防除薬剤	使用倍数 (収穫前日数/目数)	10a当たり 散布量	備考
収穫後～ 2月末	ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)	集団一斉耕起			集落単位(10ha以上)で実施する。
5月上・中旬	ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ	集団一斉耕起			3月までに一斉耕起のできない地域(裏作の作付率が高く、休耕田が点在するような地域)では5月に行う。
浸種前		塩水選を励行する			(うるち米の塩水選は、水10ℓに食塩2.0～2.5kg、または水10ℓに硫安2.2～2.9kgとする) 塩水選後水洗いを励行する。
種子消毒	ばか苗病 褐条病 もみ枯細菌病	テクリードCプロアブル イネシンガレセンチュウ	200倍(1回) スミチオン乳剤	24時間 種子浸漬 1,000倍(1回)	
播種時 又は 播種後	苗立枯病	タチガレン液剤 (フザリウム菌・ビシウム菌) ダコニール1000 (リゾープス菌)	500倍(2回) 1000倍 (は種14日後 まで/2回)	1箱当たり 500ml	
育苗期	ヒメトビウンカ (縞葉枯病) ツマグロヨコバイ (萎縮病)	畦畔および 育苗中の防除 トレボンEW	1,000倍 (4/3)		畦畔や周囲の雑草を除草し、育苗箱はできるだけツマグロヨコバイ等のいない場所におく。
田植の 3日前～当日	いもち病 紋枯病 ウニカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ コブノメイガ イネミズノウムシ	スクラム箱粒剤 (育苗箱処理)	(1回)	1箱当たり 50g	
田植直後	スクリミングゴガイ (ジャンボタニシ)	ジャンボたにしくん	(60/2)	1～2kg	代かきは均一にし、田植後はできる限り浅水に管理する。

防除時期	病害虫名	防除薬剤	使用倍数	10a当たり 散布量	備考(散発的防除)
7月下旬 キヌヒカリ にじのきらめき	カメムシ類 コブノメイガ ウンカ類 ツマグロヨコバイ	トレボンEW	1,000倍 (14/3)	150ℓ	◎いもち病、紋枯病発生のおそれがある場合は、アミスターEイト1000倍(14/3)を散布(加用)する。
7月下旬 きぬむすめ 7月下旬 ヒノヒカリ・にこまる	カメムシ類 コブノメイガ ウンカ類 ツマグロヨコバイ	トレボンEW	1,000倍 (14/3)	150ℓ	
8月中旬 (乳熟期) キヌヒカリ にじのきらめき 8月下旬 (乳熟期) きぬむすめ 9月上旬 (乳熟期) ヒノヒカリ・にこまる	カメムシ類 「ウンカ類 ツマグロヨコバイ」	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍 (7/3) 3,000倍 (7/3)	150ℓ	◎乳熟期とは穂が出揃い傾きかけた頃です。 ◎コブノメイガの発生が見られる場合は、ロムダンゾル1,000倍(21/2)を混用してください。 ◎乳熟期以降にトビロウカの発生がある場合はエミリアアプロアブル1000倍(7/2)を散布してください。

除草剤使用基準 稲苗移植栽培(10a当たり使用量)

○田植同時・一発処理	
エンペラー1キロ粒剤 移植時または移植直後～ノビエ3葉期ただし収穫60日まで(1回) 1kg	
○省力一発処理	
サラブレッドKAIフロアブル 田植直後～ノビエ2.5葉期ただし移植後30日まで(1回) 500mℓ	
○超省力一発処理	
エンペラージャンボ 田植直後～ノビエ3葉期ただし移植後30日まで(1回) 25g×10個	

一発処理後とりこぼし雑草がある場合(10a当り)

○サンバンチ1キロ粒剤 1kg (湛水散布) 移植後15日～ノビエ3.5葉期 但し収穫60日前まで／1
○クリンチャーバスME液剤(落水散布) 移植後15日～ノビエ5葉期 但し収穫50日前まで／2 薬量1,000mℓ/希釈水量70～100ℓ
○ワイルドパンチ豆つぶ液剤(落水散布) 移植後15日～ノビエ5葉期 但し収穫50日前まで／2 薬量1,000